

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520932

研究課題名(和文)職人技術における伝統の保持と近代化に関する研究 「手作り」を視点に

研究課題名(英文)Traditional maintenance in craftsman technology and study about modernization:in a viewpoint of "Making by hand"

研究代表者

小池 淳一(Koike, Jun'ichi)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号：60241452

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は職人の技術に関して「手作り」を視点として、その近代化にまつわる問題について調査・分析をおこなった。木工業や酒造業・桶樽製造などにおいて、技術が相互に規定し合う状況を調査し、また轆轤をめぐる祖神信仰が近代の万年筆製造についても継承されていたことを解明した。「手作り」という言葉は職人技術の近代化のなかで、オーダーメイド、もしくは部分的な可変仕様の意味合いで用いられ、そこに伝統的な技術に関する感覚が埋め込まれている場合があることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This research investigated "making by hand" about the problem which concerns the modernization as a viewpoint about craftsman's technology and analyzed.

It was put in the carpenter trade, the sake brewing trade and tub barrel production and the situation that technology is prescriptive each other mutually was investigated, and it was elucidated that ancestral god belief concerning a potter's wheel was also succeeded to about modern fountain pen production again.

A word as "making by hand" had its custom made in the modernization of craftsman technology or, was used by an implication of the partial variable specification, and I made it clear that a sense about traditional technology is sometimes embedded there.

研究分野：民俗学

キーワード：技術 継承 近代化 感覚 祖神

1. 研究開始当初の背景

職人技術の機械化・工業化の過程において、個々の職人が体得している感覚や技能は意外に重視され続けることが指摘されてきた。個人の技能が一定の性能しか持たない機械を使いこなし、複雑精緻な製品を作り上げていく場合があることはその証左であろう。こうした職人とその保持する技術について十名直喜は『現代産業に生きる技』（勁草書房、2008年）において、個々の職人が保持している技能を普遍的にとらえる視点として「型」という見方を提示したが、これは静態的な捉え方にとどまる憾みがある。また竹内常善らは、個人の技術や技能が近代化のなかでも大きな意味を持つことを聞き取りや史料から明らかにした（竹内常善・阿部武司・沢井実編『近代日本における起業家の諸系譜』（大阪大学出版会、1996年）。こうした従来の指摘に対して、本研究では現代における職人の伝統技術を動的で非言語的なものと考え、その把握と位置づけを試みる。また職人の技術については近代と前近代との間に隔絶した位相の差があるかのような認識がないわけではない。この点についても調査・研究の過程で検証が必要であろう。

2. 研究の目的

本研究は、伝統産業の近代化・工業化と伝統的・個人的技能との関係性を「手作り」という観念の位置づけを糸口に分析しようとするものである。一般に工業化の進展に伴い、個人的技能は淘汰され規格化されると考えられがちであるが、実際はそうではない。伝統産業においても技術の細部においては個人の経験に基づく卓越した技能が根幹をなしている。それらはしばしば工業化の対極にあるように思われがちだが、実際は伝統産業の根幹をなしているとさえ言

える。こうした個人的な技能は「手作り」あるいはそれに類する表現で流通・消費の場面でも強調される。本研究は現代の伝統産業に内包される個人的技能を複数の業種の中から横断的に抽出し、その様態と相互の関連性を明らかにすることで職人技術の継承と展開がはらむさまざまな問題を考えていく基本的な視座を獲得しようとする。

3. 研究の方法

本研究は具体的には醸造業・木工業・桶樽製作・木地挽き及びそうした職人が用いる道具に着目し、それらをめぐる「手作り」という個人的技能が発揮される工程について聞き取り及び参与観察を実施する。また映像等を用いて動的な記録も試みる。研究代表者の小池が木工業・木地挽きを担当し、研究分担者の青木が醸造業・桶樽製作を担当する。その際、職人の前近代と近代との連続性についても留意し史資料の収集・分析を試みる。

4. 研究成果

研究経過は具体的には以下の通りである。

小池は、東京における万年筆職人の相互互助組織である親王講に着目し、西日本における類似の組織との比較検討を進めた。併せて調査手法の上で重要なものとなるインタビューに基づくライフヒストリーデータの処理および分析に関する文献の収集と検討をおこなった。

さらに前近代的な職人の意識や技術認識、道具に対する心情を民俗信仰や民衆間の仏教信仰、神祇信仰などに関連させながら位置づける作業の必要性を確認し、その点についても検討を進めた。特に山の森林資源を活用する職人という視角で検討を進め、日本民俗学会でその成果の一端を発表した。また轆轤を用いる職人集団の祖神として信仰されてきた惟喬親王をめぐる調査をおこなった。

青木の研究は、おもに3つに分かれる。1つが、近江商人による酒造業の研究である。この近江商人は、とくに革新的な技術を開発していったわけではなく、むしろ安定経営を目指していたが、店舗数が多く、かつ経営規模が大きいため、蔵人集団の技術を普及させるのに大きな役割を果たした。そして、この研究を進めるため、出身地の滋賀県日野町や出店先の埼玉県、栃木県の各地で資料調査をおこなった。

2つめは、実際に酒造りを担当する南部杜氏の研究である。南部杜氏は後発の当時集団であり、1970年頃からとくに東日本で勢力を拡大した。そこで、彼らがどのようにして手作りの技術を習得し、出稼ぎ先を拡大していったのか、またいつ頃からどのような経緯で出稼ぎ者数を減らしていったのかを確認するため、岩手県内で資料調査や統計データ分析をおこなった。

3つめは、桶樽の研究である。昭和初期まで、酒造業では道具としての桶と貯蔵容器としての樽を使用することを前提として、酒造技術を形成していた。その桶樽の作り方や分業の様子、急速にそれらの職人が減っていった原因などについて研究をするため、おもに兵庫県の製樽工場や現在でも木桶での酒造りを続けている菊正宗株式会社で聞き取り調査をおこなった。

木工業や酒造業・桶樽製造などにおいて、技術が相互に規定し合う状況を調査し、また、轆轤をめぐる祖神信仰が近代の万年筆製造についても継承されていたことを解明した。「手作り」という言葉は職人技術の近代化のなかで、オーダーメイド、もしくは部分的な可変仕様の意味合いで用いられ、そこに伝統的な技術に関する感覚が埋め込まれている場合があることを明らかにした。伝統的な産業において技術の細部で個人の経験や感覚が重視されることはよく知られてきたが、現代の産業においてもこうした

側面が引き継がれている面があり、大きな意味を持っていると考えられる。

また前近代からの職業（技術）に関する意識は近代になっても継続され、工業化の片隅に、しかし確実に保存されてきている。講をはじめとする互助組織は経済的あるいは社会的な意義を有する一方で、こうした精神的あるいは宗教的な意味合いも持っていた。こうした近代の職人集団の内部を検討することで技術の継承という問題の複合的な性格を解明するための視座を得ることができた。

具体的な成果として、以下の論文発表、学会発表および一般向けの発信（フォーラム、展示）をおこなった。

5. 主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計1件)

小池淳一「東京轆轤祖神親王講の規約 万年筆をめぐる講と技」(『西郊民俗』229号、西郊民俗談話会、2014年)

〔学会発表〕(計1件)

小池淳一「職人巻物の宗教性 船大工巻物の基礎的考察」(日本宗教学会、2012年9月2日、皇學館大学)

小池淳一「職人道具の宗教性」(日本宗教学会、2013年9月8日、國學院大学)

小池淳一「山・巻物・職人」(日本民俗学会、2014年10月12日、岩手県立大学)

〔図書〕(計1件)

・職人の使う道具をめぐる技術と呪術に関する研究報告を行い、それを活字化した(小池淳一「職と技の民俗史 道具を視座に」同編『現代社会と民俗文化』、岩田書院、2015年)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小池 淳一 (KOIKE, Junichi)
国立歴史民俗博物館・研究部・教授
研究者番号：6024441452

(2) 研究分担者

青木 隆浩 (AOKI, Takahiro)
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授
研究者番号：70353373